

寛永諸家譜

菅原氏  
二卷之内

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 ( 141)
函號	特 76 1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

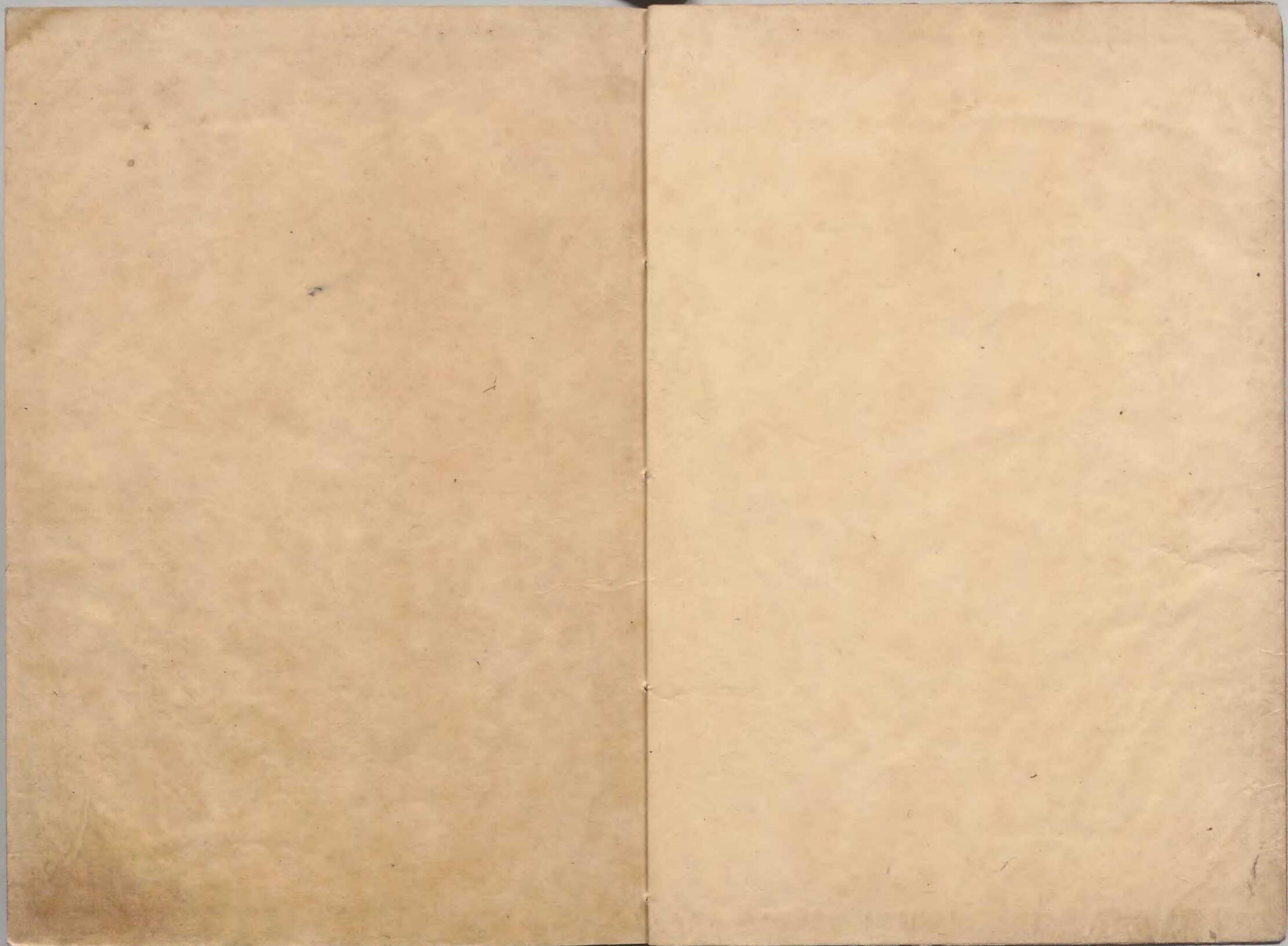
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak





柳生

券法部

後系

久松

竹崎

余信

澤

前田

寛永法衣系圖傳

菅原姓

柳生

浅草文庫

春日乃社記あすかいしむりあすか天照太神天  
 の岩戸いわとしいわるいわ出現いっげんキヨキヨ小町  
 天乃香久山あま乃岩戸いわ乃いわたぐあまたぐあま  
 たりあまうあま乃あま一はあま彦あま彦あま一あま飛あま行あま  
 う乃一はあまとあまりあまくあま和列あま一あまありあま  
 その取とあまたあまらあまげあまくあま神戸あま岩あまとあまりあま具あま

疎取悉ちりと思乃色りー回箇の  
郷ありいとゆり大柳生の店坂原  
乃店色地の店小柳生の店是なり  
減一社代りこのるれ其地なり  
堀川園白昭宣公坂原乃基継い回箇の  
郷と銀知止も六世乃惣太政大臣坂原  
乃相通よなをいびくけ回くれ郷を  
りつ々吉日乃社よ寄附して社  
銀とさう乃とさ彼若鳴勅せり

二社神通りーつれーりりりり  
かくのこしど此よ長曆二年なり  
物迄高社り一者事あまはけ若  
りつ々す鳴勅せりしやーるるを  
喜白乃社銀のなりと定らねる  
取運上の事と沙汰とせらる  
大柳生の店は右京利平なり  
坂原乃店も左京基継なり造比乃  
店を修理包成なり小柳生の店也

大膳水邊なるいあひりくはるの  
地味とたるい志終とをひりとの  
くろり一族と同一く石段と  
家傳りしりく水邊なる者尔氏乃  
余亂なるい教代お清く小柳生と  
紙と後醍醐天皇乃わくさよとひ  
て少あつて舊地とらるるの  
麻子僧とたるいく道置乃寺よ入  
流流とらつて中坊と号とえん  
流

後醍醐天皇道置のちよ後流した  
すい南木乃水夢河と帝楠表  
字乃北やしたまひけとよ楠  
いものあやとらととせし  
時り中坊表してい河内國  
金剛山のやとあり楠正成といとれ  
あつてこつとつる帝創正成と  
りらひく將とらと皇祚よ後とら  
るよとらとらとらと中坊を

● 永松 ちがし

賣うとく柳ヤ生なの年としをきままり  
中坊ちゅうぼう川のの見あ永松ちがしとびんの  
地ちとゆづるとまにこ永松ちがしとり永松ちがし  
つらまとく系けい譜ふ終つ失しとこのまり  
永松ちがしとりこのと略これとまりまり

柳生橋磨やぎよ ばりまのり

百一歳ひゃくいちさいとりく死と

家重 いへが

飯いあち

八十歳はちじゅうさいとりく死と浄阿あ弥い陀だ佛ぶつと  
号ごうと

道永 ちがし

三河さんか

七十しちじゅう八はち歳さいとりく死と

家宗

孫次郎

精名乃射子少く志をく戦功あり  
五十歳少く死す

克家

新六郎

細川高國一一人之長志以となす

高國は落乃ちかへりて柳生小治と  
うのち伊賀原とあひきりて討死す  
時一七十歳

重永

固情寺

七十九歳少く死す

家殿

義也吉

三好修理吉長を以て一經あり  
戦功ありて本義在京亮と一經あり  
天正十二年ハ十九歳少く死す

宗殿

但馬吉

松永弾正と相争く三好長吉  
ありて戦功ありて國狀救ふに  
く新法流り共法よ連と高時乃  
法大石中子と相争紙とせそ  
三法を習ふのありて三好源義昭  
織田信長と宗殿よ争くこれと相  
の争へ宗殿信長よつゝ信長は本國  
瀧川中久房より大和へ入る  
るに宗殿案内と相争るなり



病びやう〜〜〜利り安あん〜〜柳やなぎ生のう店てん  
〜〜因いん形ぎやう也なり

其その也なり五ご年ねん冥めい原げん合がっ我わ〜〜乃なり〜  
東照大権現とうしょうだいこんげん〜〜お湯いり〜〜

昔いひ法はふ乃なり乃なり乃なりとと乃なり乃なり乃なり！

同十一年八十歳とじゅういちねんはちじゅうさいああくく死しと

殿勝たにかつ

新治部しんじぶ

尚しやう升しやう順じゆん意いととままろろをを目め〜〜  
大和やまと〜〜柳やなぎ生のう店てんとと飲いん知ちとと乃なり  
のち少すく〜〜ああ〜〜中ちゆう飲いんとと吉きち地ち形ぎやう〜  
経けい歴れきとと六む十じゅう又また歳さい少すく〜〜死しと

宗むね鉅きよ

又また大だい東とう門もん 但たるる者もの 後のち五ご位い下げ

文ぶん祿りく之の年ねん

大権現だいこんげんとと乃なり〜〜此こゝ〜〜人ひとをを〜〜

長久二年秋京傍謀叛のとき宗經  
大権現より志すべしをくまの里に歸列  
小山よりまゝと方路勅しをよびし  
大権現の御より先と方におしし御書  
と父宗殿よりきぬりしとありし  
忠志を勵むるをいふ命ありて宗經  
畢て下一統して本依柳生と宗經  
白蓮院殿より給地千石とくまの里

りりち

りりち

將軍家より所之きくまの里宗經  
御よりりち新法流の兵法とあり  
此三代に授けし中よりありし  
將軍家顧問尤多し一可乃事献  
正宗乃以脇指とたすし一可乃先  
將軍家乃御よりりち又信下し叙し

大横目乃役と勅度、領地とくまへ  
す、却、一子二百と領せうの外  
院時の賜、これある、且、時、宗、鉅、が、別  
墅、一、後、法、一、た、ま、ひ、以、因、過、ら、か  
る、原、命、の、く、下、あ、れ、と、あ、と

三殿

七郎 十景宗

元和二年三月

台、法、院、殿、と、稱、一、を、て、中、心、に  
向、五、年、一、り  
將軍、殿、一、所、之、を、ま、り、ま、り、れ

後鉅

主膳

寛永七年

將軍、殿、一、所、之、を、ま、り、ま、り、れ

家乃級和礼發香

法級筆

義徳の部

● 右人の

後五位下の

清公の

左少弁の

左京大夫の

後三位

先王

冬議

後之位

刑部

元亨四年八月子薨

菅家

後二位右大臣

贈右大臣

正二位

後醍醐天皇

後一位

母左大臣

高親

大少弁

後五位下

淳茂

大弁

正四位下

寧茂

大少弁

為茂

常陸女

是為

近江指守

母は左衛門文勢貞女

家為

五右衛門

為為

五右衛門 神祇伯

康資五右衛門 此五右衛門保司の家よりして

且姓と違ふる 康資五右衛門は花山院に御

孫なり

為貞

五右衛門

為貞なりまこと

門院侍かどいんのおうらひ

母は大恩源大妻女むはたおんげんおほつまむすめ

為家なりけ

刑部大進かきふおほしん

為信なりのぶ

文内少輔くわいのせうすけ

信茂のぶしげ

坂鳥羽院乃西面大妻女さかとりばのにしめんおほつまむすめ

討死うちしとありあり一ひと祖そ父ふ為家なりけ

ゆづりゆづりとゆとゆりり

氏茂うぢしげ

貞茂まことしげ



恒茂 つねしげ

元茂 もとしげ

長末大守

法名心免 しんけん

頼茂 よりしげ

菅田郎 すげのらう

管山合戦 くだりあひせん

討死也

法名永折 えいせき

茂長 しげなが

茂継 しげつぐ

法名永右 えいゆう

母ハ山中樓氏ガ女 ちやうざうろうし

茂久 しげひさ

菅之郎 之郎在末討

上総女 ちやうさうのむすめ

長享己酉二月十三日 抄一玄壽六十九

法名永松 えいまつ

茂教

下野守

母中山中権氏

文應二年九月七日

法名和若

宗喜

貞茂

右衛門尉

菅原宗尉

内應二年十月十九日

反逆のとき熱飲大膳大更言程の味方と  
なりし同名五人郎はありし一取に討死  
す成状あり 法名芳林

茂俊

六郎之郎

母茂清澄茂の女

茂江

菅原之郎

下総守

後醍醐

管之節

上總介

下總守

後醍醐

管之節

三浦右衛門

生國を以甲斐

長四年伏見より

大指現に湯見より

同五年奥列御陣関ヶ原御陣

伏奉関ヶ原没落此乃ら

天命

よりて江列水口城より

正家城より一命とけん

ふあり後醍醐城より

知らぬ多き後ち

同十九年死 法名月光宗周

後醍醐

管之節

十

生國同

長年中

大指現はらははららら大坂おさかの陣じん

佐々

元和二年

白旗院しろはたて殿の所へ入りりり御ご殿の

はらむ

同九年

將軍しんげん家け一いつはらむらむ

寛永七年八月廿二日大坂おさかの陣じん下り

とひく死しと歳とし廿五 法名ほつな清きよ平へい貞さだ

後傍のちかた

十二郎じふにらう 之郎のらう左ひだり衛ゑ 生國なまくに回まわり

元和九年

將軍しんげん家け一いつはらむらむ

高たか後のち

菅すが之の郎らう 一いつ角かく 生國なまくに相あ模ま

寛永十年七月廿七日

將軍家より此へくくまつる由書付

かしこ

家乃紋 菊并梅花

美濃郡

● 茂久 三子

市原門 生國子江甲ノ

八十二歳ノ一七病死 法名通山道ノ

茂廣 四子

康子助 二の

生國河守

天正十年てんせい幸列まこと濱松はま松一ひととひてら

大指現おほさき一ひととひてらつ家  
同十二年どうじふにねん長久ながひさ多おほ合あ戦せん一ひととひてら奉ほう首しゅ級きふ  
とひてらつまつふ四十八歳しじゅうはちまい  
一ひととひてら病死びやうし 法名ほふな月つき宝たから貞まこと名な

發正はつせい

市郎いちらう右みぎ第だい一いち 生國遠江なまくにん えん

寛永六年かんえい伏見ふし見城じやう一ひととひてら  
大指現おほさき一ひととひてら  
大坂おほさか御陣ごじん一ひととひてら奉ほう首しゅ級きふ  
白旗院しらかし殿どの一ひととひてら  
將軍しやうぐん家け一ひととひてら

發正はつせい

儀ぎ右みぎ第だい一いち 生玉なまたま在あり  
寛永七年かんえい





美濃郡

● 氏茂 うぢしげ

機河内守 はたごうちのみ

生國守 なごみのり

後持 ごもち

次々末

生國回

後府 ごふ よしひら

大指規一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五一十六一十七一十八一十九一二十一二十一一二十二一二十三一二十四一二十五一二十六一二十七一二十八一二十九一三十一三十一一三十二一三十三一三十四一三十五一三十六一三十七一三十八一三十九一四十一四十一一四十二一四十三一四十四一四十五一四十六一四十七一四十八一四十九一五十一五十一一五十二一五十三一五十四一五十五一五十六一五十七一五十八一五十九一六十一六十一一六十二一六十三一六十四一六十五一六十六一六十七一六十八一六十九一七十一七十一一七十二一七十三一七十四一七十五一七十六一七十七一七十八一七十九一八十一八十一一八十二一八十三一八十四一八十五一八十六一八十七一八十八一八十九一九十一九十一一九十二一九十三一九十四一九十五一九十六一九十七一九十八一九十九一一百

後勝

と友次

生國氏苑

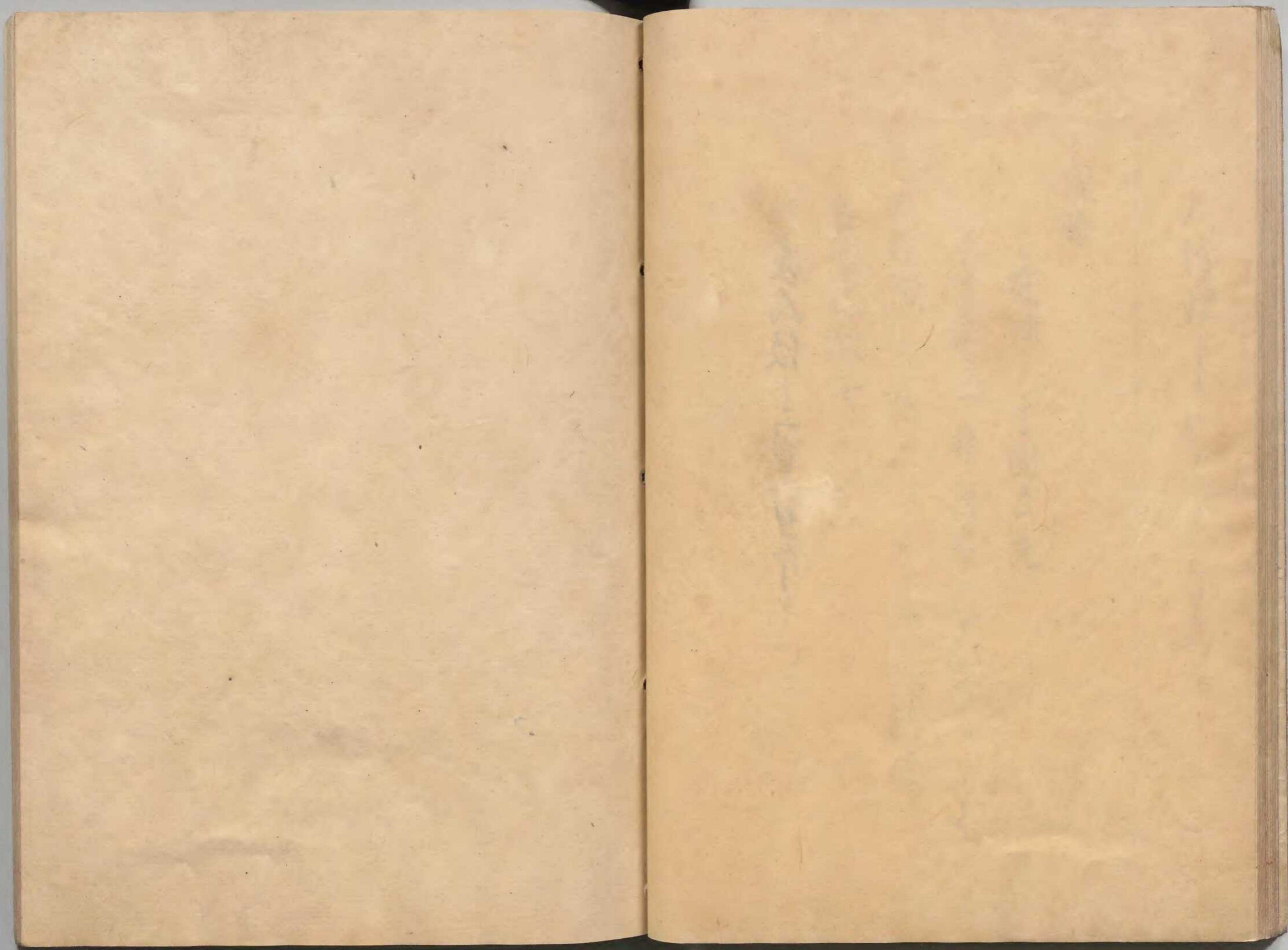
其又在十二年後府よとひてらうめく

大指規一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五一十六一十七一十八一十九一二十一二十一一二十二一二十三一二十四一二十五一二十六一二十七一二十八一二十九一三十一三十一一三十二一三十三一三十四一三十五一三十六一三十七一三十八一三十九一四十一四十一一四十二一四十三一四十四一四十五一四十六一四十七一四十八一四十九一五十一五十一一五十二一五十三一五十四一五十五一五十六一五十七一五十八一五十九一六十一六十一一六十二一六十三一六十四一六十五一六十六一六十七一六十八一六十九一七十一七十一一七十二一七十三一七十四一七十五一七十六一七十七一七十八一七十九一八十一八十一一八十二一八十三一八十四一八十五一八十六一八十七一八十八一八十九一九十一九十一一九十二一九十三一九十四一九十五一九十六一九十七一九十八一九十九一一百

台徳院殿とひ

將軍家一一二一三一四一五一六一七一八一九一十一十一一十二一十三一十四一十五一十六一十七一十八一十九一二十一二十一一二十二一二十三一二十四一二十五一二十六一二十七一二十八一二十九一三十一三十一一三十二一三十三一三十四一三十五一三十六一三十七一三十八一三十九一四十一四十一一四十二一四十三一四十四一四十五一四十六一四十七一四十八一四十九一五十一五十一一五十二一五十三一五十四一五十五一五十六一五十七一五十八一五十九一六十一六十一一六十二一六十三一六十四一六十五一六十六一六十七一六十八一六十九一七十一七十一一七十二一七十三一七十四一七十五一七十六一七十七一七十八一七十九一八十一八十一一八十二一八十三一八十四一八十五一八十六一八十七一八十八一八十九一九十一九十一一九十二一九十三一九十四一九十五一九十六一九十七一九十八一九十九一一百

家乃紋 二重菊の



吳澄初

● 茂重

孫九郎

生國を以甲賀郡

信長一子 法名遊海

茂忠

新右衛門 生國同好

孝列漢松よとひくくたどり

大指現一しに之くくつ家

天正十八年小田原陣一しを

同十九年奥列陣よきるびひ

まつ家

文禄元年約陣よ仕奉

孝名三年孝本孝たあつし家

又れかつしとらんして茂忠

かつ家茂力とあせく孝本

と江列摺田よとひくくち名と匿

園東一のき

大指現乃水たまけとかりぬまらし時

大板れ立奉り

大指現へうし之て茂忠と結ん

あふ

大指現水もりにう乃信おと

のしゆ

同五年

大指現奥列系勝と御征伐のこゝに茂忠  
をうゝに依奉して小山とてふふけ  
こゝに石田治部少輔が謀叛にけりあり  
野列宇治江よとひく茂忠と  
御前よりして甲賀に一族をたし  
やあやとこを給ふすふら山景  
道河保よりあひうへしむか勝とて  
勢列長崎よりとむむく

一 関原の陣のこゝに勢列素名に城と徳丸

人殺し一列と

又江列あはれ城と徳丸と

日二年本領とてあつり徳俊とゆ

とくれ上あはれとてく唐突に流と関東へ

連一二年よ一交関東よとてとて

あ湯しとてとて

大坂あはれ陣より依奉

名徳院殿よはれとてとてつり前れとて  
上方よありうららち幕下よとて

此之<sup>い</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>つ</sup>らん<sup>事</sup>と<sup>す</sup>ふ

寛永<sup>かんえい</sup>三年<sup>さん</sup> 御命<sup>みこと</sup>より<sup>り</sup>り<sup>く</sup>

將軍<sup>しょうぐん</sup>家<sup>け</sup>より<sup>り</sup>此<sup>こゝ</sup>へ<sup>に</sup>ま<sup>つ</sup>らん<sup>事</sup>と<sup>す</sup>ふ<sup>は</sup>御<sup>み</sup>加<sup>か</sup>

坊<sup>ぼう</sup>と<sup>り</sup>り<sup>く</sup>

五十八<sup>いそはち</sup>歳<sup>さい</sup>に<sup>に</sup>て<sup>り</sup>死<sup>し</sup>と<sup>す</sup> 法<sup>ほふ</sup>名<sup>な</sup>統<sup>とう</sup>行<sup>ぎやう</sup>と<sup>り</sup>廓<sup>くわく</sup>

茂命<sup>しげのみこと</sup>

源<sup>げん</sup>太<sup>たい</sup>基<sup>き</sup>の<sup>の</sup> 生<sup>なま</sup>國<sup>くに</sup>回<sup>まわ</sup>り

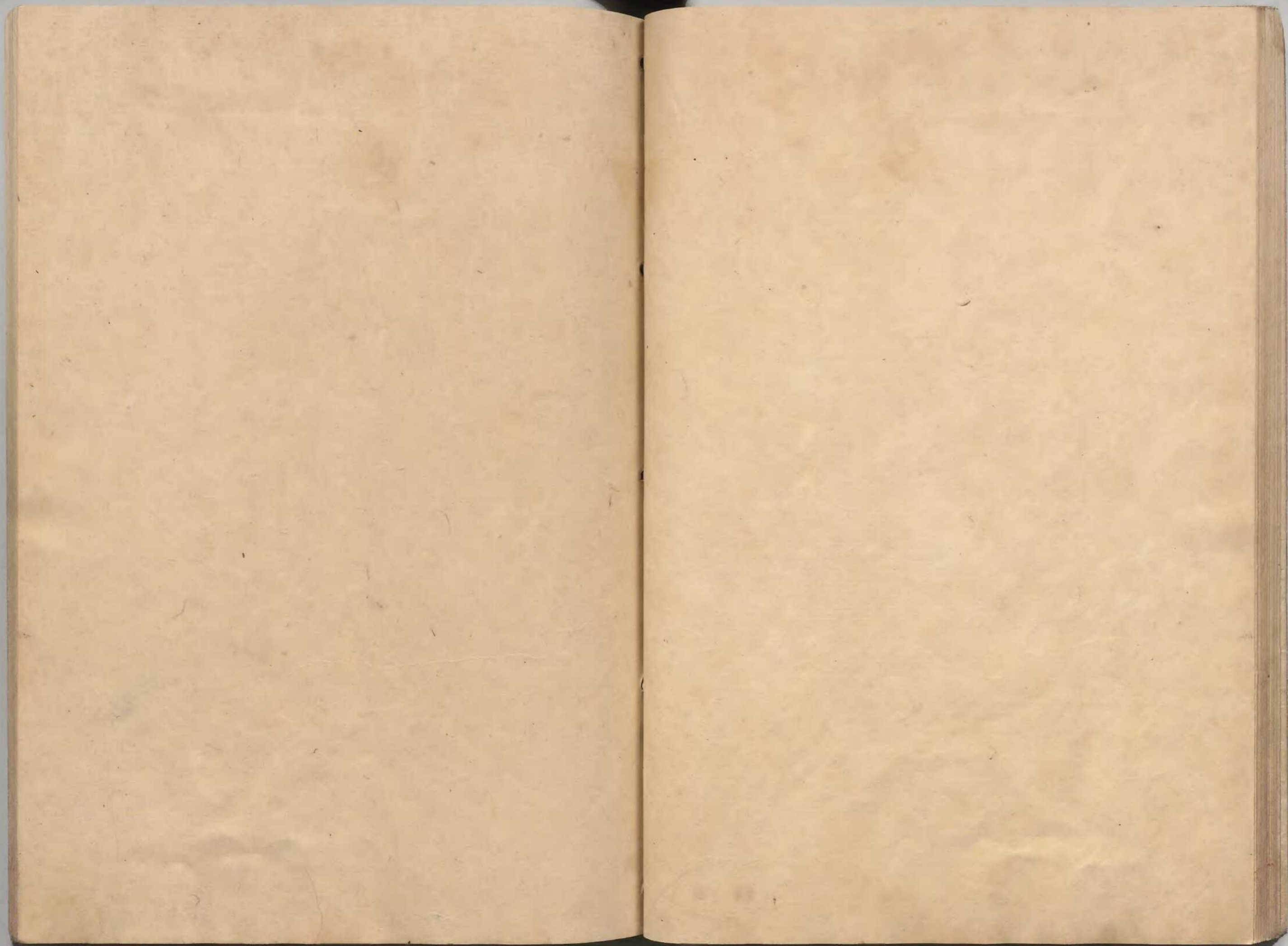
寛<sup>かん</sup>永<sup>えい</sup>七<sup>しち</sup>年<sup>ねん</sup>に<sup>に</sup>て<sup>り</sup>死<sup>し</sup>と<sup>す</sup>

將軍<sup>しょうぐん</sup>家<sup>け</sup>より<sup>り</sup>此<sup>こゝ</sup>へ<sup>に</sup>ま<sup>つ</sup>らん<sup>事</sup>と<sup>す</sup>ふ<sup>は</sup>大<sup>だい</sup>海<sup>かい</sup>と<sup>り</sup>り

中<sup>なかつ</sup>め<sup>め</sup>山<sup>やま</sup>切<sup>きり</sup>来<sup>きた</sup>と<sup>り</sup>り

同<sup>どう</sup>十<sup>じゅう</sup>年<sup>ねん</sup>二<sup>に</sup>百<sup>ひゃく</sup>石<sup>いし</sup>の<sup>の</sup>地<sup>ぢ</sup>と<sup>り</sup>り<sup>く</sup>之<sup>の</sup>な<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>

家<sup>け</sup>乃<sup>の</sup>紋<sup>もん</sup> 菊<sup>きく</sup>芥<sup>かゐ</sup> 梅<sup>うめ</sup>鉢<sup>はち</sup>





美濃郡

● 茂内 しげうち

清洲助 きよすのすけ

生園 なまの 甲賀郡 かへ

大指現 おほさしげん 一 いち 比 ひ 久 く 三 さん 十 じゅう 三 さん 十 じゅう 三 さん 十 じゅう 三 さん 十 じゅう 三 さん

茂次 しげつぎ

助之郎

生玉河

天正十四年幸列濱松えんきりよりあひら  
大指現に謁まうしこくまつる

同十八年小田原陣とどろよりくまつる

同十九年奥列陣おくよりこまつる

まつる

文禄元年朝鮮陣ぶんろくよりくまつる

寛長三年吳淞かんちやうよりくまつる

喜本きほんよりくまつる

関東くわんとうよりくまつる

同五年

大指現おほさしげん系勝けいしやうよりくまつる

石田三成いしだ謀叛ぼうはんよりくまつる

道阿弥だうあみよりくまつる

列長れいちやうよりくまつる

関ヶ原せきがはら陣じんよりくまつる

又また列れいよりくまつる

又また列れいよりくまつる

又また列れいよりくまつる

同六年本領とあり法後以迄  
とあり新大領とありとあり  
同十六年七月十八日は死に歳四十六

辰正

指し助 生國同ら

長十七年後府よとひく

大権現ト為揚トあり又乃安

督とあり

大坂御陣よ供奉

名徳院殿よに之とあり又乃安

にわに列甲於よ君とありのち

幕下よに之とあり 約命

にありてに戸よ作し大書紙

此のむのち

將軍家トあり之とあり

寛永十年領地二百石とく之

とあり舊領と合五百石あり

家乃紋

柿 びめ  
輪 て  
肉 ち

長流記

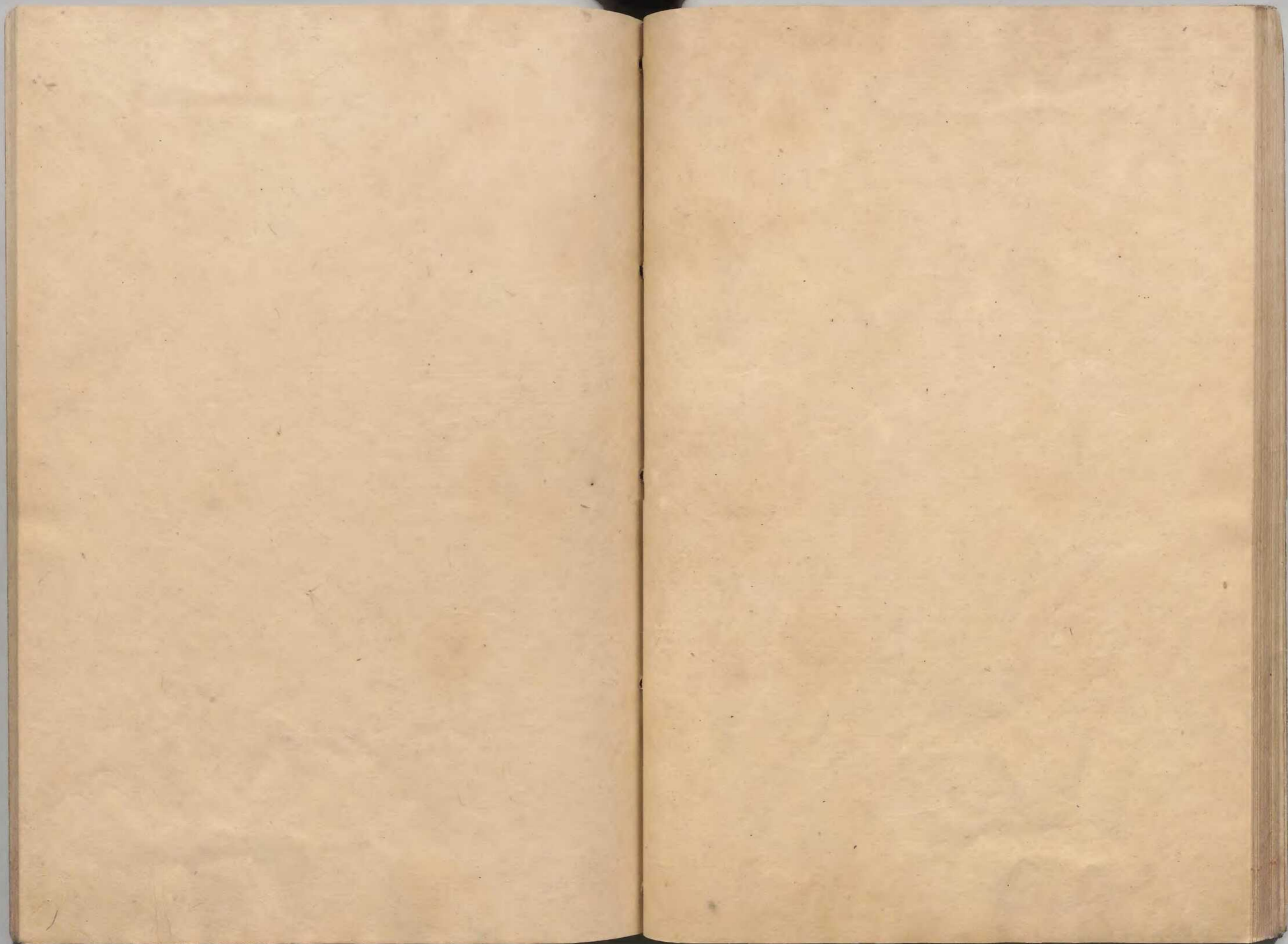
● 果

うまのせう  
右馬允

三列しとひく

大権現よりくまらる





英法郎

● 茂信

在苑 生園子江甲ふ賀か

茂正

一郎右郎 生園ふ同か安あ



後教ごうきょう

比苑ひえん左史 生國なまくに同前

天正十一年てんしゅうじゅういちねん 演あそび松まつ一いちとひ

大権現おほいけん子こ所ところ之の一いちとひとひ 法名ほふな法月ほつげつ

後俊ごしゅん

八郎はちらう左史 生國なまくに本苑ほんえん江戸

天正十七年てんしゅうじゅうしちねん 後府ごふ子ことひとひ

大権現おほいけん子こ所ところ之の一いちとひとひ

重安しげやす

七左しちざ左門さもん

台徳院たいとくえん殿どのとひ

將軍しやうぐん家け子こ所ところ之の一いちとひとひ

茂しげ左さ

八苑はちえん 生國なまくに同前

長ちやう

教馬 生國なま同なま

家乃紋 二重菊ふたへ下した齊と

後系きり

先祖せんぞ孫まご正ただ大弼おほひつ貞衛まことり次男つぎのこ後立ごたて下  
時清とききよが末裔まついなり代しろく乃家のけ後免ごめん  
列りの乱らんよりより忠孝ちゅうこうとうとう

● 貞次まこと

忠孝ちゅうこうの  
貞庫まこと貞頼まこと

貞好

貞明

越中守

兵庫頭

貞長

左馬助

生國冬之河設系君

清康君

生國冬之河設系君

貞重

雅系助

生國冬之河設系君

清康君

天文六年 廣忠之甥列

思傍乃城之海

天正五年二月十九日七十九歳

死

貞道

越中守 生國冬之河設系君

長崎よりとひく

東照大権現より此之をてゆつる

永禄六年冬列戸島一揆の元長崎

列島よりとひくた田あり

元龜三年

大権現成田信玄也之方原御合戦の時

貞道次男貞信ととつて濱松より質

とたをる乃ち信玄冬列野田此

城より貞道正ととら 約命ととら

城より入るべきとゆりか

天正三年五月長篠御陣の元

海井左衛門尉經より一 鶴巣より

城より入るべきと入首ととらるのち

貞道 命とたつて信列とと押入

つとあ冬列風来より一 寓す事一

年よりとゆり

寛永元年十二月廿七日六十二歳を

死す 法名香山

貞清

皇庫頭 後立位下 生國河

大権現と

台徳院殿 此之

天正十年信列新府と

氏直と御對陣乃

同十二年長久手御合戦

此高名あり

同十八年小田原御陣

寛永八年六十七歳

貞信

市左衛門 生國河

大権現 此之

長久手御陣と

御陣

大坂冬御陣乃

了り候へり候奉

翌年夏御陣の事此伏見乃城あり勅

すのり

白旗院殿と云ふ

將軍家より此へて候つ

貞政

甚し物 生國氏親御

將軍家より此へて候つ

貞代

甚し郎

白旗院殿より此へて候つ

孝文長五年

白旗院殿宇都宮より 後御ありて

中山道より御上御ありて候奉

同十九年乃冬大坂御陣より候奉

翌年夏御陣の事此 貞命より

より伏見の城敷とほむむ  
將軍家より所へくまう

寛永十五年五月十一歳少く死す

貞時

之左衛門尉

大権現

台徳院殿とほむ

將軍家より所へくまう

寛永十一年五月十一歳少く死す

同十五年四十一歳少く死す

貞利

内記 生玉茂苑

寛永十五年貞時死して後記藏と

はく

貞辰

白馬



寛永七年十七年

將軍家より湯よりたてまつる

同十五年貞代死してのら家督を

とつ

家乃紋 十六重 表菊

設系しやうけい

● 能久のぶひさ

肥系ひえい 生園茂統

小系茂昭のぶあき 一いつ 氏うぢ

天正十九年八月寺乃城てんしやうじゅうくわつてらのみしろ

討死うちはし

能重しげ

惣大進しやうだいしんの尉ゐ 生園なまき同おなあ

小糸こいと氏し照あきの尉ゐ 了りょう 病びやう死し

能業なり

長なが吉きち忠ちゆう尉ゐ 生園なまき同おなあ

大指おほさし現げん

白濱しろはま院ゐん殿でんとといいふ

將軍家しやうぐんけより此こゝ之こゝよりより三さん代だい  
御代ごだい友とも乃の役やくとといいふ

能政なり

源げん助すけ 生園なまき同おなあ

白濱しろはま院ゐん殿でん

將軍家しやうぐんけより此こゝ之こゝよりより御代ごだい友とも  
乃の役やくとといいふ

能利

勘十郎 生國回

實は戸米と大束の子なり能業嗣子

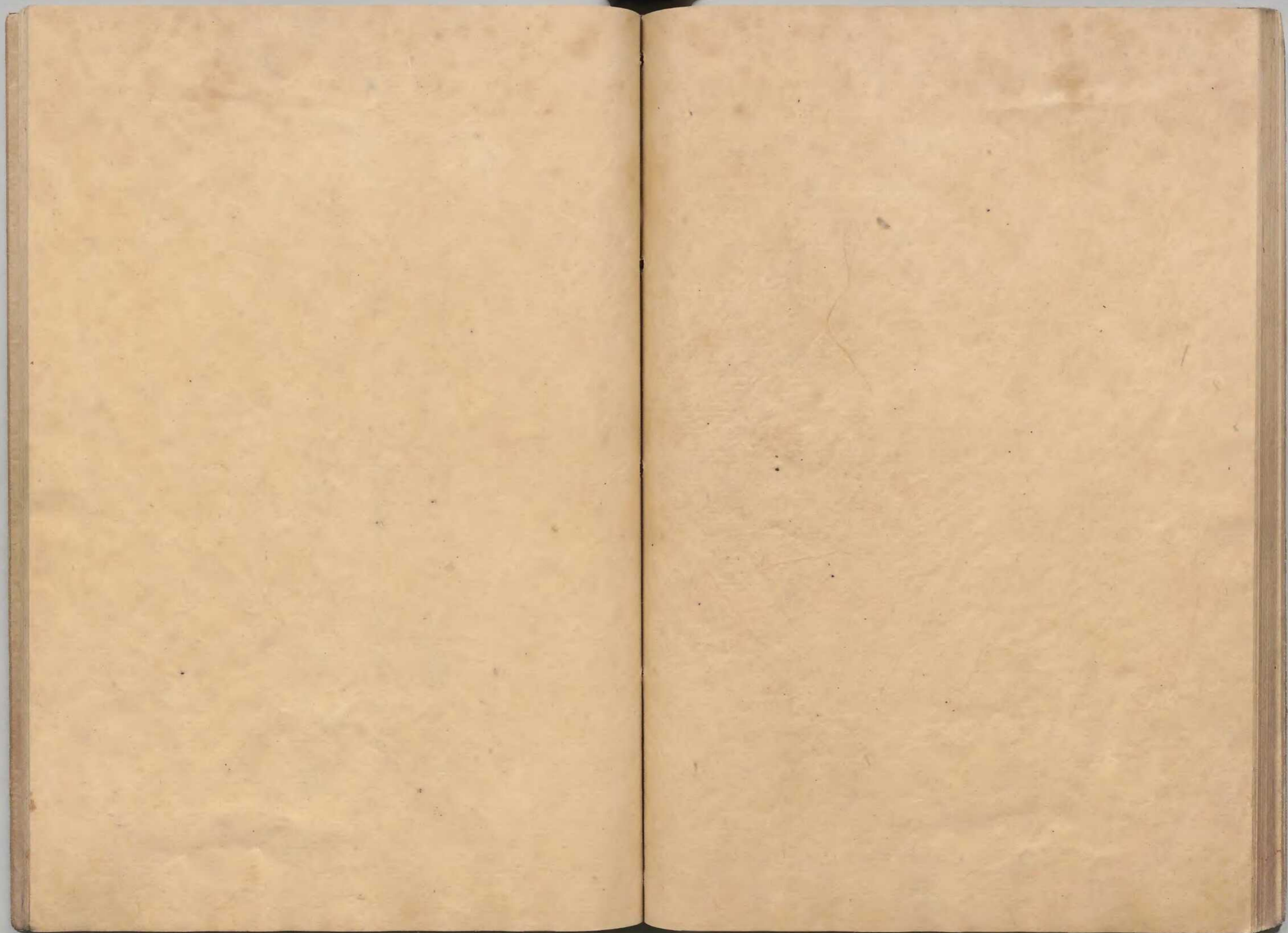
たはゆへに養子とせ

寛永十七年

將軍家より此之よりゆつり勘定

乃役とせし

家乃紋本風或ハ丸の内ノ本風



● 通定

孫正ひま 兼かみ 尉ゑう 生なま 圖ず 尾び 法ぽう 同どう 圖ず 智ち 多た 勇ゆう

久松ひさまつ

作つく 之の 小こ 菅すか 原はら 乃の 久松ひさまつ 磨ま 尾び 列れつ  
智ち 多た 勇ゆう 兼かみ 尉ゑう 乃の 配はい 流りゅう 世よ 系けい  
有あ 子こ 孫そん 皆みな 久松ひさまつ と 夫おとこ と 氏うぢ と  
ま とい づ 通 定 とい づ 子 とい づ 氏

阿古子あこ子こ孫そ

定則さだむね

正勝ただかつ

新左衛門尉しんざゑもんゑい

大膳大進だいぜんのだいしん

道勝ちみちかつ

定綱さだつな

太郎たろう

次郎じろう

定氏さだうぢ

大進だいしん

詮定せんぢやう

左衛門尉ざゑもんゑい

實まこと大野おほの一ひと文ふみ吉よしのぶ大おほ獨ひとり後ご貞さだ貞さだ二ふた男おとこ

なり定氏さだうぢ嗣ついで子こ方かたささよよりりてて長なが

子こ也や一ひと家いへ督とく也やけけ一ひと也や

範勝のりかつ

定光じやうかう

源吉兼尉

大京子

定益じやうえき

定義じやうぎ

肥前守ひぜんのかみ

次郎兼尉

定俊じやうしゆん

水后守みづごのかみ

東照大権現とうしょうだいこんげん 此こゝよりより松平  
氏うぢととゆゆりり子孫こそん松平  
ととゆゆりり氏うぢ也なり

定重じやうぢゆう

民部大輔たみぶのおおのたすけ

忠次ちゆうじ

彦左衛門尉 生國尾法智なまくにのおり多おほ勢しやう巧くわう吉きち右みぎ



天正八年

大権現軍と率一高天神井城と  
せあふふけ時大次は奉水野也を  
一居一進く柵乃うらへ能り  
あてく銭よ

翌年まこと言て神乃城とむる時  
此方よ者沢某と生捕は落珠の時  
甲首一級とらふ

大権現甲列之坂一とらふと記

忠次塔本乃町の市一とひく款  
乃一方は大将幸山在乃討と戦ひし  
後之坂乃坂中ふく款一持と討捕  
日十二年四月長久手御合戦  
款敷おれと記大次も也を討れり  
毎うのら味方利と一たしむる  
らく引返けか一款勝よのり  
来時大次乃野也を来り一居一進  
あて挑戦しと交逐一旗本

兵とつて戦ひと決し一敵の将と  
しらぬか

大権現秀吉を和勝し一由は  
大権現所上流に節 信一は侍奉  
乃人ともくたるか大次郎の教に列せ  
のちり

台漣院殿より所へくくつ  
元和四年より死に六十六歳

定値

長尾重頼 生國寺江横須賀  
十五歳ありて

大権現より  
台漣院殿より所へくくつ

享長十九年乃冬大坂御陣  
侍奉

翌年夏御陣より侍奉し

急いそぐとひく味方あじの先陣せんじん敵てい水みづを  
討うちて飛とび去いる部ぶとひ定さだむ才さい  
定さだむをく敵ていひ定さだむつゝあは鉄てつ炮ぱうは  
あつふけひひの上うへでまはし御ご座ざ切き  
以もつてあつうのつら  
大指おほさし現げん京きやう都ととひく先陣せんじん敵てい水みづを  
御ご座ざ撃げきつゝあは及および定さだむ定さだむ  
佐さよよりくうの敵ていはつゝあは  
將軍しやうぐんあつうつゝあはつゝあは

定次

多たたき 生園せいぐん後河ごが  
十五歳じふごさい乃のこはつら  
大指おほさし現げんとひ  
白濱院はくはまのいん敵ていはつゝあはつゝあは  
大板おほいたか每ま  
交まじり御ご陣じんは佐さ奉ほう  
元和九年十一月げんわくねんじゅういちがつより  
將軍しやうぐんあつうつゝあはつゝあは

定正

七郎宗兼 生國氏義

十七歳乃<sup>り</sup>に<sup>り</sup>なり

大指璣<sup>と</sup>し<sup>び</sup>

白河院教<sup>り</sup>に<sup>り</sup>に<sup>り</sup>なり

大坂<sup>の</sup>方<sup>に</sup>御陣<sup>し</sup>侍奉<sup>し</sup>天子<sup>を</sup>

急<sup>に</sup>し<sup>り</sup>と<sup>し</sup>ひ<sup>く</sup>天野<sup>の</sup>老<sup>の</sup>八郎<sup>と</sup>定<sup>正</sup>氏

と<sup>し</sup>び<sup>に</sup>定<sup>正</sup>同<sup>に</sup>戦<sup>ひ</sup>功<sup>あり</sup>あり<sup>候</sup>

將軍<sup>家</sup>に<sup>り</sup>に<sup>り</sup>に<sup>り</sup>なり

定久

指<sup>大</sup>丈 生國<sup>氏</sup>あり

寛永七年十六歳<sup>なり</sup>

將軍<sup>家</sup>に<sup>り</sup>に<sup>り</sup>に<sup>り</sup>なり

定延

長<sup>之</sup>郎 生國<sup>氏</sup>あり

十七歳ありて

將軍家より此へて

家乃紋 楠編肉

むらさ

竹嶋

茂春

大和寺

生國近江甲賀

法名遊閑

茂幸

大炊助

生玉同前

濱松<sup>はま松</sup>一<sup>と</sup>と<sup>ひ</sup>く  
大指現<sup>おほさしげん</sup>一<sup>と</sup>湯<sup>ゆ</sup>一<sup>と</sup>の<sup>の</sup>勅仕<sup>しんじ</sup>を  
通<sup>と</sup>書<sup>が</sup> 法名

茂成<sup>しげなり</sup>

七<sup>しち</sup>太<sup>た</sup>史<sup>し</sup> 生<sup>せい</sup>國<sup>こく</sup>同<sup>どう</sup>の<sup>の</sup>

大指現

台<sup>たい</sup>海<sup>かい</sup>院<sup>いん</sup>殿<sup>でん</sup>と<sup>と</sup>い

将<sup>しょう</sup>軍<sup>ぐん</sup>家<sup>け</sup>一<sup>と</sup>片<sup>ぺ</sup>之<sup>の</sup>一<sup>と</sup>く<sup>く</sup>月<sup>げつ</sup>つ<sup>つ</sup>家<sup>け</sup>

茂正<sup>しげまさ</sup>

一<sup>いつ</sup>郎<sup>らう</sup>三<sup>さん</sup>采<sup>さい</sup> 生<sup>せい</sup>國<sup>こく</sup>茂<sup>まう</sup>統<sup>とう</sup>

台<sup>たい</sup>海<sup>かい</sup>院<sup>いん</sup>殿<sup>でん</sup>と<sup>と</sup>い

将<sup>しょう</sup>軍<sup>ぐん</sup>家<sup>け</sup>一<sup>と</sup>片<sup>ぺ</sup>之<sup>の</sup>一<sup>と</sup>く<sup>く</sup>月<sup>げつ</sup>つ<sup>つ</sup>家<sup>け</sup>

茂信<sup>しげのぶ</sup>

四<sup>し</sup>郎<sup>らう</sup>大<sup>だい</sup>采<sup>さい</sup>門<sup>もん</sup>

元<sup>げん</sup>和<sup>わ</sup>七<sup>しち</sup>年<sup>ねん</sup>一<sup>と</sup>り

將軍家一ノノノノノノノノノ

茂宗よし

市ノ吏 生國氏統

將軍家一ノノノノノノノノノ

茂次よし

市ノ郎 生國氏統

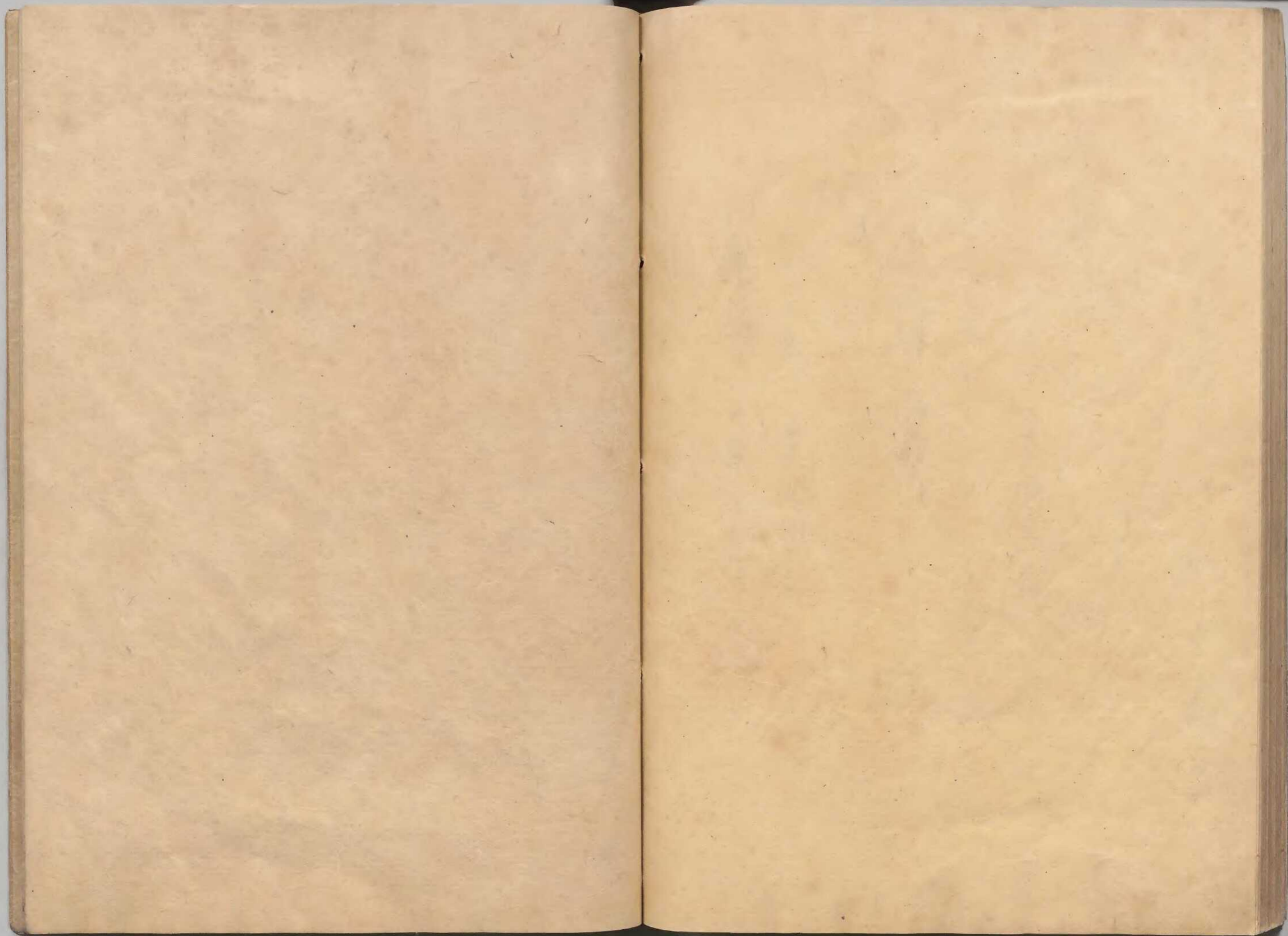
寛永十三年一ノノノノノ

將軍家一ノノノノノノノノノ

家ノ紋

むら楠楠内





余語

● 某

久苦某 生國冬河

位者一 所冬列衣乃城之坂井

右迎見方

伊成いなり

源三郎

生玉なまたま

大権現おほごんげん

正重ただしげ

久々くく

生國なまくに

大権現おほごんげん

重成しげなり

合十郎

生國なまくに

大権現おほごんげん

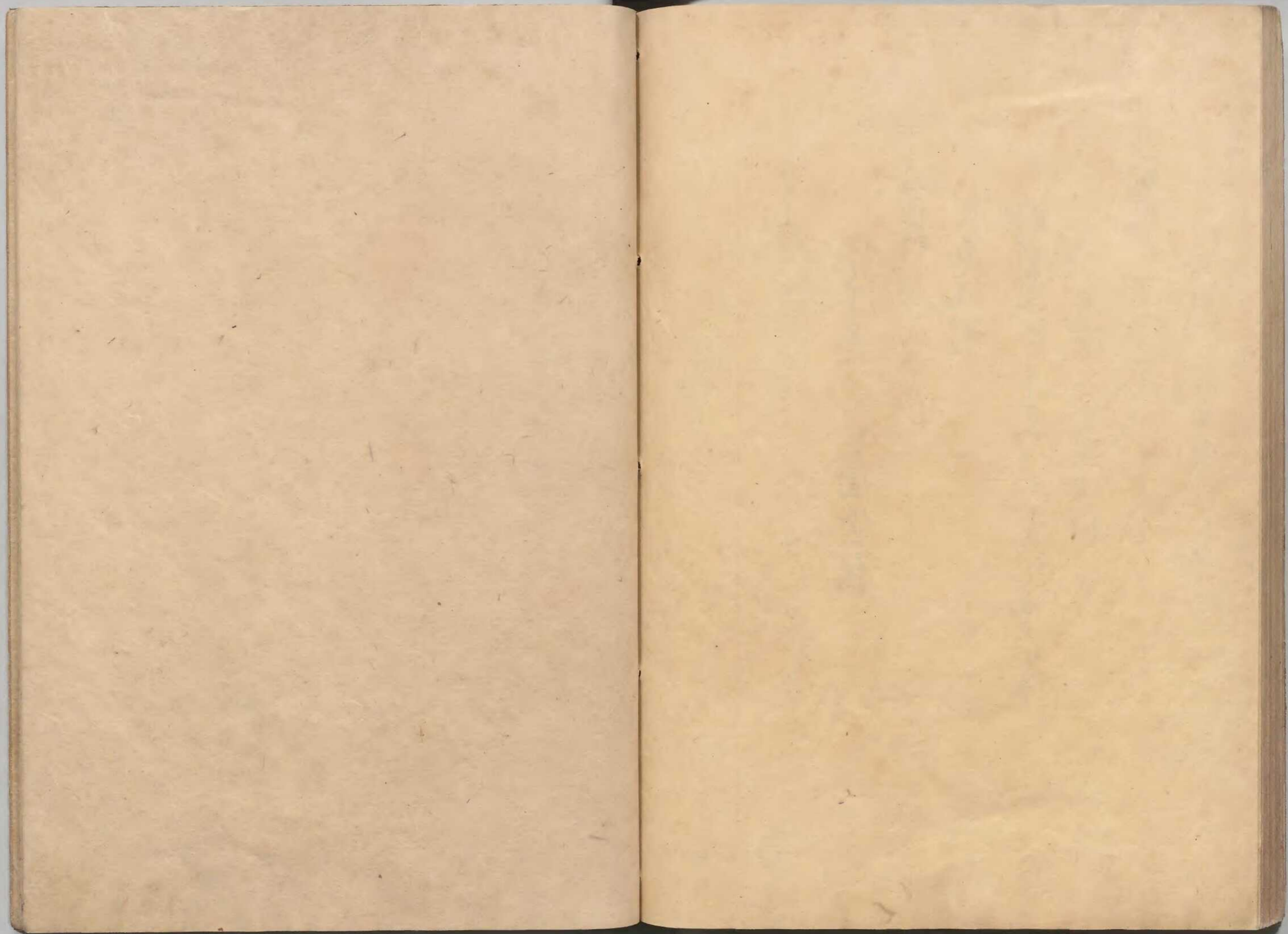
白鹿院しろかづのいん

將軍しげん

正成ただなり

仁左にざ

生國なまくに



次

予は余語氏なり子孫沢氏  
乃其子也其志も色も幼少  
此に養父討死を以て  
沢氏乃系圖詳なり其有る海  
余語氏の世系家乃紋とありこれ  
と記す

● 宗宗 むねむね

余清三郎在集 生國尾清  
信長一ツノ江列小乃郡小田一  
としく討死

宗重 むねしげ

余清合七郎 坂之太田町ありて  
生國同家

信長一ツノ江一 信長薨一て後浪人  
也たふ家

信長三年五月十ツノ尾列とて  
死に也一 五十五 法名通全

宗久 むねひさ

沢九郎次郎 坂之太田町ありて  
宗久沢太田の書子也 行家未乃也  
一 余清と改之沢と号す也

でも宗久六歳乃此書又た其の  
勢列小河内陣せいりつこがうちじんとて討死  
すも志士ししとていふ世系よこせ  
家乃紋とていふ海志うみしとて実父まご  
乃姓氏ななせうじとていふ是誠志まことしとて  
宗久秀次むねひさひでつぐとていふ秀次ひでつぐ乃  
のら秀長元年十二月廿二日

白蓮院殿しらねんいんどの御瑞ごみづから奥列御陣うしろりつごじん  
供奉くぶがして宇都宮うつのみやとていふ家計時

石田治政いしだぢせい乃播磨はりまとていふ  
御法ごほふとていふこれとていふ

白蓮院殿しらねんいんどの才方さいかた乃海志うみしとていふ  
左大臣さだみじんとていふ供奉くぶがしていふ大坂

白蓮院殿しらねんいんどの乃忠むねとていふ  
白蓮しらねんとていふ

同十九年同二十年大坂おおい乃御陣ごじん  
供奉くぶがして御馬ごま乃前ぜん乃後ご乃

ちりきと御攻陣より及く伏見に  
城よりとひくろくろく乃功と稱英  
一黄金とよふけ時酒井雅宗以多  
求後お玉井大炊以安斎對馬守御命  
とひくお留いしくけ度乃黄金は  
正し御盛状よむかしくるを  
なり御 還御乃後任り御地と  
まふ一とあふ御ありを御  
と下よまふ一とあふ御あり

是よりくく武列下是立那徳根  
村と御命と常よ御遊攝乃侍奉  
とつふむ

寛永八年よりとく奥方孔御命と  
此より

將軍家乃御代よとくびく又同奥方  
乃御命と此より

同十二年九月御行禱よりて御  
大神文より御命とけや此羽織着服



黄金木とてあり

同十九年二月五日武列東別府

とひく加坊乃地とあり

同年五月一日一死と歳七十六

法名徳久

久香

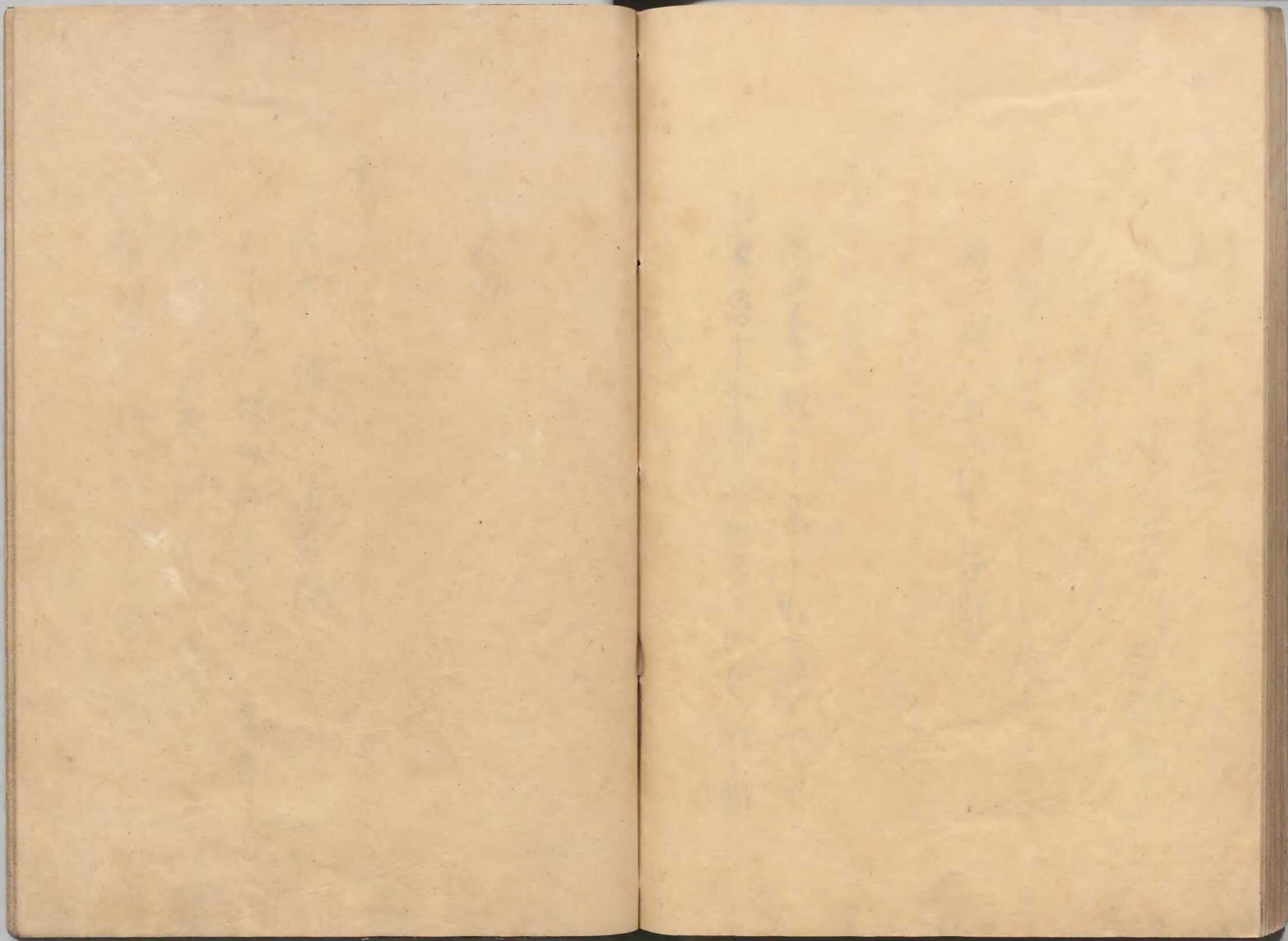
清光

寛永十九年二月五日

將軍家一に之とてまつり神保

二郎とて一居一にありとて

家の紋 丸の口裏梅



前田

玄以

法正

僧正

法正院

ちどめは城女信忠とてしび秀吉

此之を五奉行にせしむる所

大権現より此之をくほす所

正勝

半右衛門

大指現

正位

半右衛門

台徳院殿

將軍家

家乃紋

楼

